

茨城大学を生徒が訪問して、全学教職センターの石井特任教授の講義を受けました。

3月25日(月)茨城大学を生徒が訪問して、全学教職センターの石井純一特任教授の講義を受けました。現地集合・現地解散で、銚田二高から総合学科1年次8名、2年次9名、水戸農高から4名(畜産科2年、農業経済科2年、畜産科1年、園芸科1年)の合計21名の生徒が参加しました。

この取組は、4年制大学進学希望者が、茨城大学水戸キャンパスを訪問して、教授から話を聞くとともに、大学生との交流会を実施することで、茨城大学への進学意識及び学習のモチベーションの向上につなげることを目的にして、銚田二高では初めて実施しました。

9:30~11:20の講義では、『「学び続けることの意味」を体感する』をテーマにして、5班に分かれて、グループワークを行いました。初めにアイスブレイクとして「10文字キャッチコピー自己紹介」を考えて、班の代表者が発表しました。次に、「なぜ、人は学ぶのでしょうか?今の皆さんが学ぶうえでの困難(つらいこと・面倒なこと)は何か?」についてグループワークで意見を出し合って班の意見をまとめました。

さらに、『「これから皆さんが学び(学問)を進めるうえで大事なこと」などのコラムを通して、石井特任教授は何を伝えたいのだろうか、相手の意図を想像してみよう』の話し合い、「大学とは何をやるの?皆さんのイメージは?」について、グループワークで意見を出し合って、班でまとめた意見を代表者が発表して学びを深めました。

講義には、石井特任教授が主宰の「コロンブスの卵の会」の学生6名(教員を目指している学生)がアシスタントとして参加して、グループワークで高校生にアドバイスをしてくれました。

[【参考】コロンブスの卵の会 ホームページ](#)

グループワークの合間には、石井特任教授が「コミュニケーションで大切なことは、相手の話をしっかりと聞くこと」「相手との距離を縮めるために、自分をどこまでさらけ出せるか自己開示は必要だが、相手が聞いて嫌な情報はダメである」「先生が言ったことをそのまま覚えることは勉強ではない。例えば、台形の面積を求める計算式があったとすると、なぜ、そうなるのか考えることが勉強である」などの話をしてくれました。

参加した生徒たちは、「自分と異なる意見を大事にする」「自分の意見を周囲に確認する」という共通ルールのもと、大学生のサポートのもとグループワークを行って、とても楽しく有意義な時間を過ごしたようでした。

講義後、グループごとに、大学生の案内で、雨上がりの大学構内を散策しました。



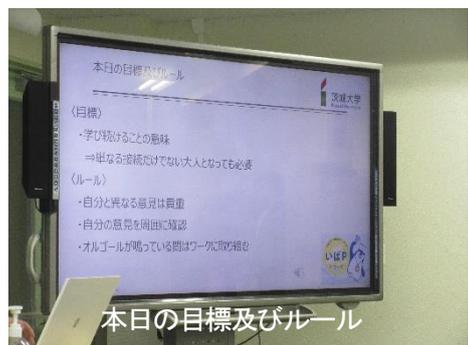
石井純一 特任教授



大学生 自己紹介



大学生 自己紹介



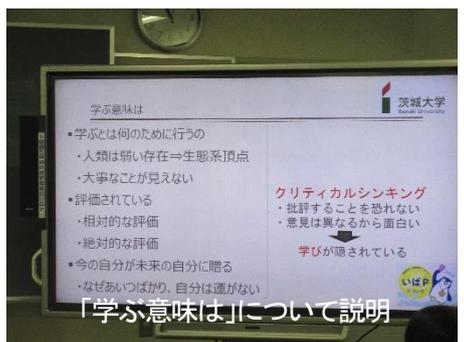
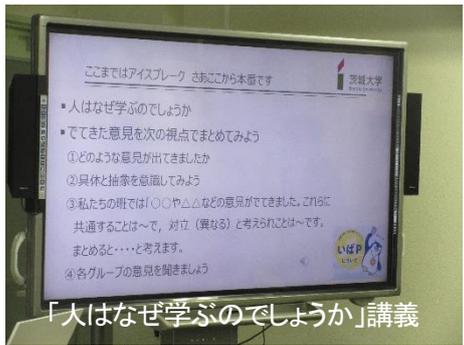
本日の目標及びルール



アシスタントの大学生



講義のようす





茨城大学 石井純一 特任教授の講義 令和6年3月25日(月) 茨城大学教育学部



若手教員にアドバイスしていただきました



雨上がりの大学構内を散策



生徒代表 お礼の言葉

【参加した生徒の感想】

1 石井特任教授の講義で印象に残ったことをいくつか書いてください。

- 「他人と話し合い、自分と異なる意見に出会うことで学びが深まる」
- 「無駄だと思っていることも考え次第でプラスになる」
- 「相手の意見を否定せずに、一緒に考えていくことが大切であること」
- 「小学生でもわかるように説明することが大切だということ」

2 アシスタントの大学生から言われたことで印象に残っていることをいくつか書いてください。

- 「一步踏み出すことが大事。どんなことにでも、まずは挑戦することが大事」
- 「大学を案内する時にとても分かりやすく説明してくれて、茨城大学に進学したいと思った」
- 「進路を決めることは、難しく考えすぎない方がよい」

3 今回、茨城大学を訪問したことをふまえて、今後の高校生活の過ごし方、進路のことなど、あなた自身がどう考えているか、自由に書いてください。

- 「教授の講義内容を勉強のモチベーションにつなげていきたいと思う」
- 「グループで話し合う時、正解は一つだと思いたまわないで、どんな意見でもまず受け入れて見ることが大切だと思った」
- 「毎日、コツコツとスキマ時間に勉強してみることが大事だと思った」
- 「専門学校ではなく、四年制大学への進学も視野に入れて考えていこうと思った」
- 「どんな学科で何を勉強したいか、目標をもって勉強することが大切だと思った」
- 「今回、大学生や教授、各学部の教室などを見学して、改めて茨城大学に進学したい気持ちが強くなった」